

# 国際社会学科

## 《学科の理念・目的》

国際社会学科は、国際関係、経済学、社会学、コミュニティ構想の分野を横断的に学ぶことを通して、現代社会を世界的な視野でとらえ、豊かな教養と専門性を備えた地球市民として、地域社会や国際社会で活躍できる人物の育成を目的とする。（東京女子大学学則 第4条第4項）

国際化の進展により、政治・経済だけでなくエネルギーや食糧の供給など日常生活にかかわるあらゆる事象は、国際関係のネットワークの上に成り立っています。また、社会の諸問題の解決において、グローバルな観点は不可欠になっています。国際社会学科では、現代社会を日本国内だけでなく、アジア、欧米、そして地球規模の視点でとらえて学びます。国際関係、経済学、社会学、コミュニティ構想の4専攻は、学問分野として相互に関連しており、専攻の枠を超えて横断的に履修し、社会の多面的な姿をとらえることを通して広い視野と柔軟な問題解決力を養います。さらに、各専攻の高度な専門性を身につけ、身近な地域社会においても国際社会においても、実践力のある地球市民として行動できる力を引き出すことを目指しています。

社会科学を中心とした方法論（国際関係論、政治学、経済学、経営学、社会学、歴史学、文化人類学、観光学、社会心理学、環境思想）を複合的に用いて、人間社会のあり方を探究しつつ、国際社会の動向に広く目を向けること、また歴史的な背景を考慮すること、さらにグローバルからミクロまで多様な接近法をとることで、広い視野と柔軟な思考力をも養っていきます。

国際社会学科で得た知見を糧に、性別にとらわれず、生涯にわたりキャリアを探求し、地域社会や国際社会で活躍できる個性豊かな人材を育成します。

## 《カリキュラムの特色》

国際社会学科では、国際関係、経済学、社会学、コミュニティ構想といった諸分野を横断的に学びます。まず、社会科学の基礎を理解させるため、「入門」を置くとともに、各専攻の学問領域の基礎的科目として「基礎講義」を配置しています。これらの科目は主に1、2年次で履修します。さらに、グローバル化する社会について理解を深め、本格的な専門知識の習得を図るため「応用講義」を置いています。両講義部門とも、専攻間の壁をできるだけ低くし、専攻を超えて社会科学及びその隣接専門分野を多様に学ぶことが可能です。また、少人数でのクラス編成で学生自らが主体的に調査をし、発表し議論し合いながら、異なる複数の方法論が必要なことを理解するための「基礎演習」、自分の専門とする学問分野の研究を深め、より高度な知識を蓄積していくための「発展演習」も置いています。以上のように「入門」、「基礎講義」、「基礎演習」から「応用講義」、「発展演習」へと科目群を系統的に配置し、それらの科目を履修することによって、社会科学の研究手法を身につけ、卒業論文の執筆に備えます。卒業論文は、全員が執筆します。テーマを選び、文献を読み、場合によっては実地調査をしながら仕上げていきます。卒業論文は、大学での勉強の最終成果であり、4年間にどれだけ視野を広げ知識を培ってきたか、そのすべてが問われます。いざという時になってあわてないよう日頃から積極的かつ主体的な態度で学習に取り組んでいくことを期待しています。

## 国際関係専攻

### 《教育目標》

国際関係専攻は、「国際性」「学際性」「現代性」を特色とする専攻です。

多様な研究方法を用いて、世界の多様な国家や地域、およびそれら国家や地域にまたがる政治、経済、社会、文化などを総合的に理解することで、現代世界の多様な問題を複数の視座によって理解し、国際社会に貢献できる人物の育成を目的とする。

### 《カリキュラムの特色》

国際関係専攻では、現代の国際社会を構造的に理解する「国際関係学」と、諸地域を多面的に扱う「地域研究」および国境横断的、通文化的に複数の地域を捉える「文化人類学」の諸科目を置いています。各国・各地域における動向を理解するためにも、異文化の理解が不可欠です。地球規模で一つになろうとしているグローバリゼーションと、それぞれの地域の特性を活かすローカリゼーションの、相反する二つの動きを同時に学んでいくことが可能なカリキュラムとなっています。

#### ①国際関係学

国際社会における現代的諸問題を素材にしなが、何が問題か、なぜそうなるのかということを通して考えていきます。

#### ②地域研究

日本・アメリカ・アジア諸地域の歴史・政治・社会・文化など、諸地域の特性ならびに地域間の関係を総合的に理解していきます。

#### ③文化人類学

世界各地の人類を社会的・文化的次元で総合的にとらえ、実際に人々が生きている時と場所において理解しようとしています。特に発展途上国については膨大な研究の蓄積があります。

1年次から4年次に演習を置いています。学年の進行とともに専門的方法論や高度な知識を積み上げ、専門にしようとする地域や分野の研究の充実をはかります。3、4年次では、演習を担当する教員による専門研究の講義が開講されます。演習関連領域の講義を必ず履修することによって卒業研究を深める力を養成していきます。

### 《履修法の助言》

#### ■学科および専攻の科目について

「学科・専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）」の表を参照し、各学年の学習がどのように位置付けられているかを確認してください。

1年次では、学科入門科目としての「国際社会論」により国際社会研究の基礎的視座とは何かを学びます。この授業を前提に「国際社会基礎演習」で、グローバル化する現代社会の諸問題、およびそれを考察するための基礎理論を学びます。専攻科目では、《入門》の「国際関係論Ⅰ・Ⅱ」「文化人類学Ⅰ・Ⅱ」において、専攻で学ぶ基礎力育成のための通文化的視点や歴史感覚を養い、「基礎演習（国際関係）」で、スタディ・スキル（レポート・小論文の書き方、口頭発表の仕方、図書館やインターネットを使った文献の探し方など）やスチューデント・スキル（大学生に求められる一般常識や態度など）を培っていきます。これらを履修することで専攻を構成する複数の領域の初歩的な知識を身につけていきます。1年次から履修することができる《基礎講義》では、国際関係史、研究対象となる諸地域（東アジア・東南アジア・アメリカ）の基礎知識を習得し、また、各概論では、日本史・東洋史・西洋史・法学・政治学の基礎を学ぶことができます。

2年次では、地域文化の多様性にふれるより高度な専門的知識を学び始め、3年次からどの専門分野に進むかを自ら選択できるよう各自の問題意識を高めていきます。「2年次演習（国際関係）」

I・II」では、専門的方法論やより高度の知識を学び、抽象的理論的議論の理解を深めることで、3・4年次の専門演習にスムーズにつながることをめざします。講義では、1年次で学んだ歴史、地域研究、文化人類学等についてもより専門的なテーマで幅広く学びます。2年次から履修を開始できる《応用講義》には、多岐にわたる科目が用意されています。

国際関係専攻の基本的な考えは、1・2年次は「広く」、3・4年次は「深く」学び、専門研究に集中するのは3年次からでも十分だということです。あまり早い段階から関心を狭い問題に絞らず、内なる「学際性」を高めるよう努力してください。専攻の学習においては、多くの地域、多くの分野に触れることを心がけてください。たとえば、中国研究を志望していても、アメリカや日本関係の科目を履修する、あるいは、国際関係を中心に勉強したい学生でも、文化人類学や地域研究の講義も履修することが望まれます。

目安としては、例えば2年次から履修を開始できる《応用講義》の近現代史（「日本政治外交史A」～「アメリカ史II」）、国際関係学（「ジェンダー国際関係論A・B」、「人間の安全保障」、「国際関係法A」～「国際関係（日中）」）、地域研究（「日本政治思想史」～「イスラム社会特論」）、人類学（「民族誌特論A」～「人権・人道の人類学」）の各分野から、それぞれ2科目以上を履修するのがよいでしょう。

また視野を広げるといふ点では、経済学専攻、社会学専攻やコミュニティ構想専攻の専攻科目、他学科の学科科目も大いに参考になるでしょう。

3年次では、各分野の専門研究の講義を「3年次演習（国際関係）I・II」とあわせて履修することで、より高度な知識を身につけ、卒業論文に向けて問題意識をさらに高めることを目標とします。《応用講義》では、研究テーマに沿って、自分の専門地域、方法論を学び、卒業論文に向けて専門性を深めます。履修上の注意として、3・4年次の演習とペアとなる、演習担当教員による専門研究の講義（3・4年次対象の《応用講義》）が開講されているので、その科目は3・4年次のいずれかで必ず履修してください。演習関連領域の講義を必ず履修することで、卒業研究を深める力を養成していきます。3・4年次の演習では、2年連続で専門にしようとする地域や分野の研究を深めていきます。したがって、「3年次演習（国際関係）I・II」は、卒業論文で取り組む課題の方向性について十分考えた上で選択することになります。

4年次では、「4年次演習（国際関係）I・II」で綿密な指導を受けながら、3年次で深めた専門知識や方法論を自らの問題意識と結びつけながら、卒業論文を仕上げます。卒業論文は卒業年次に全員が提出します。4年次の5月末には題目を提出しなければならないため、遅くとも4年次になる前までにはどのような主題を扱うのか、考えをある程度まとめておき、題目を提出するまでに、演習担当の教員と十分に相談しておく必要があります。3年次で履修する多くの専門研究の講義や「3年次演習（国際関係）I・II」の内容は、卒論作成に大いに役立つものですが、それらが直接自分の卒論題目と結びつくわけではありません。4年次においては、各人のテーマにあわせ、必要な科目を新たに履修する必要もあるでしょう。卒業論文のテーマは教師から与えられるものではなく、自ら色々な可能性の中から問題意識を絞り込んで決めるものです。『国際関係研究』（旧名は『地域文化研究』、4月配布）に載せてあるこれまでの卒業論文の題目を参考にするのもよいでしょう。卒業論文は大学での勉強の総決算であり、4年間にどれだけ視野を広げ知識を培ってきたか、そのすべてが問われるといつてよいでしょう。いざというときになって慌てないように日ごろから積極的かつ主体的な態度で学習に取り組むことを期待します。また、卒業論文は提出期限を厳密に守り、かつ定められた様式にしたがって提出しなければなりません。本専攻では年度初めに4年生に対して『卒業論文の手引』を配布しています。そこに書かれた注意事項をよく読み、常に速めのペースで論文作成にあたるのが肝要です。

### ■全学共通カリキュラムとの関連について

**知のかけはし科目**：多様な視点や考え方を体感することで、自分の思考に深みを与え、国際関係専攻の目指す「国際性」「学際性」「現代性」を身に付けていきましょう。

**第一外国語科目**：自分の専門性を深めるためにも英語能力を高めることは不可欠です。1、2年次でしっかり英語力をつけ、上級生でも積極的に履修するようにしましょう。

**第二外国語科目**：特に言語を指示しませんが、中国や朝鮮研究を志す可能性がある場合は、中国語や韓国語の語学力が要求されます。1年次から中国語または韓国語の学習を始めることを勧めます。また、1年次必修科目だけではなく、選択科目である読解A、読解B、作文と文法、会話も積極的に履修しましょう。

**AI・データサイエンス科目**：課題や卒業研究に取り組むためには、情報処理科目の知識は必須です。必修科目だけでなくテーマ別の選択科目も履修してみましょう。

### 《その他》

履修の方法の詳細や資格取得等については、年度初めのガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。

### 国際社会学科および国際関係専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目(◎必修科目 ○選択必修科目)
1 年 次	国際社会学科で学ぶ基礎作りをし、国際社会研究のための基礎的視点を養う。	◎国際社会論
	現代の国際関係を理解するために、主として 20 世紀からの国際関係の知識を得ることを目標とする。 (1年次でできるだけ履修する)	◎国際関係論 I・II
	総合的に人間研究を行ってきた文化人類学という学問の基礎を養う。 (1年次でできるだけ履修する)	◎文化人類学 I・II
	国際社会論の授業内容を前提にしながら、グローバル化する現代社会の諸問題、およびそれを考察する視点の基礎作りを行う。	◎国際社会基礎演習
	スタディ・スキル、スチューデント・スキルなどの初歩的な理解を目指す。	◎基礎演習(国際関係)
	<b>【1・2年次共通】</b> 国際関係史、諸地域の歴史・政治・社会・文化について理解を深める。	○基礎講義の各科目
2 年 次	自分の個人的な問題意識を他人にも理解できる言葉で表現し議論ができるよう訓練する。	◎2年次演習(国際関係) I・II
	<b>【2・3・4年次共通】</b> 各分野の研究領域について理解を深め、より高度な知識を獲得する。	○応用講義の各科目
3 年 次	卒業論文を作成する前段階として、各自の専門研究を深めることを目的とする。	◎3年次演習(国際関係) I・II
4 年 次	バランスのとれた専門性の高い内容の論文として完成させるために必要な力を養う。口頭発表、演習履修者全体での討論や意見交換、指導教員のアドバイスなどにより各自が新たに得た学問的発見を論文に反映できるようにする。卒業論文作成の過程を通し、自分で物事を考え、整理し、主張をしていくという社会人としての基本的要件も同時に習得していく。	◎4年次演習(国際関係) I・II ◎卒業論文

## 経済学専攻

### 《教育目標》

経済学専攻は、豊かな教養をベースに、経済学の理論、歴史、分析技術に関する専門的な知識を有し、また経営学の学識と思考を活用して、国内外の課題に積極的に対応し、グローバル化する経済社会で活躍できる人物の育成を目的とする。

### 《カリキュラムの特色》

- ①「入門」の授業を通じて、経済学、経営学とは何か、どう学ぶかを習得します。

経済学は「社会科学の女王」と呼ばれるほど、論理的で体系的な学問です。物事を論理的に捉え、一時的な感情に左右されない冷静な判断力を涵養するため、「マイクロ経済学入門」「マクロ経済学入門」では経済学の本来の目的と経済学的な「ものの見方」をしっかりと学び、今後の学習に向けて、自分自身で確かな方向性を見つけていきます。「経営学入門」では企業経営の全体像を把握し、企業経営の実態を理解するために、理論とともに実際の企業や組織の事例を学びます。

- ②「基礎講義」の授業を通じて、経済社会に存在する複雑で多様な問題を分析するための土台を築きます。

「基礎講義」は、「入門」で養った経済学の考え方をさらに深化させることを目標としています。経済学の分析手法とともに、歴史的な観点から現代を相対的に見ることを学びます。そうして、流動的な世界経済の状況を適切に分析し、問題の原因を究明し、解決方法を探るための基礎的な能力を身につけます。

- ③「応用講義」の授業を通じて、経済社会に関するより専門的で幅広い問題解決能力の獲得を目指します。

「応用講義」では、国際経済、財政、金融、開発、環境、労働、福祉、ジェンダー等の問題など、個別分野の知識を深めるとともに、アメリカ、中国、EU、アジアなど世界各地の経済状況に関する知識を豊かにしていきます。また、経営戦略論・財務会計・管理会計・経営ファイナンス・マーケティング・簿記・保険・証券、企業法・労働法・経済法など、企業経営の手法や経済社会の制度・ルールを学ぶことによって、実践的な力を養います。

- ④4年間の演習で、自分を取り組む問題を仲間と一緒に突き詰めることができます。

演習は教員と学生の距離がもっとも縮まる場です。ここではむしろ学生が主人公です。自分の報告をめぐって、教員と議論を戦わせることもあれば、学生同士で活発な意見交換を行うこともあります。そのなかで、仲間の問題意識・目的意識に刺激され、自分の研究を深めていく環境が生まれます。

### 《履修法の助言》

#### ■学科および専攻の科目について

「学科・専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）」の表を参照し、各学年の学習がどのように位置付けられているかを確認してください。

1年次では、学科入門科目として「国際社会論」により国際社会研究の基礎的視座を学びます。この授業を前提に「国際社会基礎演習」で、グローバル化する現代社会の諸問題およびそれを考察するための基礎理論を学びます。専攻科目では、「マイクロ経済学入門」「マクロ経済学入門」「初級マイクロ経済学」「初級マクロ経済学」「経営学入門」を通し経済学専攻で学ぶ基礎作りを行います。また、「基礎演習（経済学）」において、分析対象となる経済の仕組みを理解することや、経済学を学んでいくために必要な学習の技法（研究発表の仕方、質疑・応答や討論の行ない方、文献や資料などの集め方、調べ方）を学んでいきます。

2年次では、「2年次演習（経済学）Ⅰ・Ⅱ」および《基礎講義》の科目を通じて、経済学的思考を深化させ、分析方法を身につけます。「2年次演習（経済学）Ⅰ・Ⅱ」では、1年次で学んだ経済学の基礎を英語でとらえ直すことで理解を深めるために英文のテキストを使います。経済学専攻の基礎講義には、次の10科目があり、この中から最低でも5科目（10単位）を履修することが必要です。

「中級ミクロ経済学」、「中級マクロ経済学」は、それぞれ初級程度の知識を持つ学生が、「理論経済学」の基礎理論を習得し、社会問題のさらなる分析能力を養うことを目的とします。このほか、実際の多様な経済政策の分析に必要な基礎的な経済理論を習得する「公共経済学」、これまでに習得した経済学（特にミクロ経済学）の基礎理論と公共経済学の理論を現実の経済問題に適用する「経済政策」、経済理論の歴史的展開を学ぶことにより現代理論の理解を深化させる「経済学史」、現代経済の基盤である市場経済の成立と変容を理解する「経済史」、ミクロ・マクロ経済学の数学的理解に必要な数学の手法を身につける「経済数学」、社会科学分野の統計データの分析と解釈のために必要な基礎的統計学の知識を習得する「統計学」、企業活動の中心となるヒト・モノ・カネの管理の仕方を身につけ、企業経営の基本的な考え方を習得する「経営管理論」、組織のあり方、組織の管理方法、組織の変容などを考察しながら、企業の発展のために必要な組織のあり方を考える「経営組織論」があります。

また、2年次からは、《応用講義》により、各分野の科目を履修し、より専門的で幅広い問題解決能力を獲得して行きます。応用講義は、毎年開講されるとはかぎらないので、開講予定を確認しながら履修計画を立てることを勧めます（教育課程の備考欄参照）。

3年次では、少人数で行われる「3年次演習（経済学）Ⅰ・Ⅱ」を核として専門性を高めて行きます。経済の多様な分野と隣接する領域の知識を豊かにすることによって、応用力を養います。《応用講義》の各科目は、各自の関心、あるいは演習での研究テーマなどに応じて、幅広く履修してください。また、社会学専攻、コミュニティ構想専攻、国際関係専攻の科目を履修し、応用力を高めることもできます。

4年次では、これまでに身につけた知識と方法を総動員して卒業論文を作成します。原則として3年次演習と同じ教員が担当する「4年次演習（経済学）Ⅰ・Ⅱ」で綿密な指導を受けながら、自らが研究対象とする分野の知識を深め、個別の問題関心を学問的に磨き上げて行きます。卒業論文作成の指導もまた、原則として同じ教員が担当します。卒業論文は、大学での学びの集大成です。これまでに学んだ講義、演習に基づいて、自分自身で問題を発見・分析し、その解決策を探っていきます。テーマを選び、文献を読み、執筆するというプロセスを経て、学問的にも人間的にも大きく成長していきます。

## ■全学共通カリキュラムとの関連について

**第一外国語科目**：自分の専門性を深めるためにも英語能力を高めることは不可欠です。積極的に学習するように勧めます。

**第二外国語科目**：特に言語を指示しませんが、国際経済の理解を深めるため読解A、読解B、作文と文法、会話も履修を勧めます。

**AI・データサイエンス科目**：データ処理の高度な知識・技術の習得が望ましいので、積極的な履修を勧めます。

## 《その他》

履修の方法の詳細や資格取得等については、年度初めのガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。

## 国際社会学科および経済学専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目(◎必修科目 ○選択必修科目)
1 年 次	国際社会学科で学ぶ基礎作りをし、国際社会研究のための基礎的視点を養う。	◎国際社会論
	基本的なミクロ経済学の知識を身に付け、現実の市場経済についての理解を深めることができるようにする。	◎ミクロ経済学入門
	マクロ経済学の基礎的な概念と理論を学ぶ。財政、金融、民間投資、雇用等の観点から日本経済が直面する課題とそれらに対する政策を理解することを目指す。	◎マクロ経済学入門
	「ミクロ経済学入門」の発展として、完全競争市場の特徴を考察する。つぎに市場への(政府)介入の意義と限界を検討する。最後に、不完全競争の分析を概観する。	◎初級ミクロ経済学
	ケインズの一般均衡理論から始まって、貨幣市場を含んだIS-LM分析や開放体系下のマクロ経済分析など、より複雑な理論を理解することに挑戦する。	◎初級マクロ経済学
	企業経営の全体像をつかみ、かつ、戦略論と組織論を中心に経営学の主要分野の基礎知識や基礎理論を学ぶ。	◎経営学入門
	国際社会論の授業内容を前提にしながら、グローバル化する現代社会の諸問題、およびそれを考察する視点の基礎作りを行う。	◎国際社会基礎演習
	経済社会の諸課題に触れながら、大学での学び方と問題を発見する力を養う。	◎基礎演習(経済学)
<b>【1・2年次共通】</b> 経済学的思考を深化させ、分析方法を身につける。	○基礎講義の各科目	
2 年 次	英文テキストの読解を通じて、1年次に学んだ経済学の基本に対する理解を深めることを目標としている。論理的な思考方法と経済学的な考え方を確固としたものにする。	◎2年次演習(経済学) I・II
	<b>【2・3・4年次共通】</b> 各分野の研究領域について理解を深め、より高度な知識を獲得する。	○応用講義の各科目
3 年 次	1・2年次の基礎演習で獲得した理論をそれぞれの経済学分野に応用し、現実経済の動きを自分自身で分析できるようにする。	◎3年次演習(経済学) I・II
4 年 次	各分野の知識を深化させ、各自がテーマを絞ってより専門的な学習を行うとともに、相互の議論を通じて、主体的に研究を進展させる能力を養う。卒業論文の作成とも連動させながら、先行研究のリサーチ、必要な資料・文献やデータの収集と整理、論文の構成の立て方など、論理的・客観的な学術論文を執筆できるようにする。	◎4年次演習(経済学) I・II ◎卒業論文

## 社会学専攻

### 《教育目標》

社会学専攻は、社会学の知識、高度なデータ収集・分析力、柔軟な思考力に基づいて、既存の制度・習慣・思考様式に疑問を投げかけ、よりよい共生の実現や社会問題の解決に向けて積極的に貢献できる人物の育成を目的とする。

### 《カリキュラムの特色》

社会学専攻では、1年次から演習授業を取り入れて、学問的な「ものの見方」を学んでいきます。入門的な講義により、社会学を学ぶ土台作りをします。2年次では、1年次の学びを一層深めるとともに、社会調査法の勉強がはじまり、問題を自ら捉え解決する能力の養成を目指します。3年次、4年次では、各自の関心に従って演習・調査実習のクラスに分かれ、学習の総仕上げに向かいます。

#### ①最先端の研究成果を学ぶ科目

国際化、少子・高齢化が進むいま、多様で異質な人々が尊厳を認め合いながら、年齢や性別、身体能力の差異、国籍や出自、思想信条等にとらわれず互いに支え合う社会の創造が求められています。この要請にかかわる研究成果に関して、講義や演習を通して理解を深めていきます。

#### ②行動的で実践的な研究方法を学ぶ科目

実際に現実に接し、さまざまな問題を考えていくために、量的・質的調査の手法を習得します。

#### ③少人数での演習科目

各年次に演習があります。3年次以上の演習は、各教員の専門領域ごとに分かれており、より高度な学習を進めていきます。社会調査実習が演習クラス別に設置され、各自の関心に合った調査方法を学び、実習を行います。

#### ④卒業研究

個別指導や学生相互の討論などを行い、卒業研究に向け綿密に準備していきます。

### 《履修法の助言》

#### ■学科および専攻の科目について

「学科・専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）」の表を参照し、各学年の学習がどのように位置づけられているかを確認してください。1年次では、学科入門科目としての「国際社会論」により国際社会研究の基礎的視座とは何かを学びます。この授業を前提に「国際社会基礎演習」で、グローバル化する現代社会の諸問題、およびそれを考察するための基礎理論を学びます。専攻科目では、「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」を通し社会学専攻で学ぶ基礎作りを行います。また、「基礎演習（社会学）」において、社会学を学んでいくために必要な学習の技法（研究発表の仕方、質疑・応答や討論の行い方、文献や資料などの集め方、調べ方）を学んでいきます。

2年次では、「社会学史Ⅰ・Ⅱ」、「社会調査法A」、「2年次演習（社会学）Ⅰ・Ⅱ」を中心に、社会学全般の体系的な知識を養います。「社会学史Ⅰ・Ⅱ」では、社会学の歴史を社会学の理論と具体的な社会状況の関連に着目して学び、社会学という学問の輪郭を把握します。社会調査法では、社会調査に必要となる知識を体系的に身につけていきます。質問紙によるデータ収集や事例研究、調査倫理など、社会的現実と接して事実を解明するための量的・質的社会調査法に関する知識と姿勢を習得します。2年次必修の「社会調査法A」のほか、《応用講義》の「社会調査法B」



および「社会調査法C」を選択することができます。「2年次演習（社会学）Ⅰ・Ⅱ」では、社会的なものの方、考え方について、自主的な発表、討論などによる演習形式で学習します。現代社会の具体的な諸現象、社会問題を題材とし、社会学の各論的な広がりとともに、社会的な発想法、社会学の基礎概念および理論枠組、方法論など社会学の総論的内容を学びます。同時に、効果的な口頭発表（プレゼンテーション）のやり方、学術的な文章の書き方、討論の進め方を習得します。2年次からは、多面的に社会問題を扱う《応用講義》の各科目を各自の関心に応じて履修していきます。

応用講義は、毎年開講されるとは限らないので、開講予定を確認しながら履修計画を立てることを勧めます（教育課程の備考欄参照）。3年次でどの担当者の演習を履修するかということは、卒業論文のテーマにもかかわってきますので、2年次のうちに自分の関心の所在を明確にしておく必要があります。

3年次では、少人数で行われる「3年次演習（社会学）Ⅰ・Ⅱ」に分かれ、これを核として専門性の高い知識を習得していきます。同時に、演習別に分かれて履修する「社会調査実習Ⅰ・Ⅱ」では、演習と連携して行われるきめ細かい指導を通じて、研究領域によって異なる調査方法を身につけます。これらの学習により、卒業研究の綿密な準備が可能となります。《応用講義》の各科目は、各自の関心、あるいは演習での研究テーマなどに応じて、幅広く履修してください。経済学専攻、国際関係専攻、コミュニティ構想専攻の科目を履修し、応用力を高めることもできます。

4年次では、大学での勉強の集大成として、これまで体系的に学習した理論と知識を用い、各自が関心をもつ具体的なテーマについて卒業論文を作成します。原則として3年次演習と同じ教員が担当する「4年次演習（社会学）Ⅰ・Ⅱ」で綿密な指導を受けながら、自らが研究対象とする分野の知識を深め、個別の問題関心を学問的に磨き上げていきます。卒業論文作成の指導もまた、原則として同じ教員が担当します。卒業論文は、大学での学びの総まとめです。これまでに学んだ講義、演習、社会調査実習に基づいて、自分のテーマに沿って論文を作成します。テーマを選び、文献を読み、場合によっては調査をしながら執筆するというプロセスを経て、学問的にも人間的にも大きく成長していきます。

#### ■全学共通カリキュラムとの関連について

**知のかけはし科目**：本学の学びの核心である「リベラルアーツ教育」を体現する科目です。ぜひ履修してください。

**女性の生きる力科目**：いずれの授業も社会学と切っても切れない関係にあります。履修すれば必ずや役に立ちます。

**第一外国語科目**：自分の専門性を深めるためにも英語能力を高めることは不可欠です。積極的な履修を勧めます。

**第二外国語科目**：言語はどれでもかまいませんが、グローバル化の多様な進展のあり方に対応するため、読解A、読解B、作文と文法、会話の履修も勧めます。

**AI・データサイエンス科目**：データ処理の高度な知識・技術に習熟していることが望ましいので、積極的な履修を勧めます。

## 《その他》

履修の方法の詳細や資格取得等については、年度初めのガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。

## 国際社会学科および社会学専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目 (◎必修科目 ○選択必修科目)
1 年 次	国際社会学科で学ぶ基礎作りをし、国際社会研究のための基礎的視点を養う。	◎国際社会論
	社会学の視点と方法について基礎的知識を得る。	◎社会学概論Ⅰ・Ⅱ
	国際社会論の授業内容を前提にしなが、グローバル化する現代社会の諸問題、およびそれを考察する視点の基礎作りを行う。	◎国際社会基礎演習
	自主的な学習を前提とした報告や討論による演習形式での講義を通じて、大学で社会学を学んでいくために必要な学習の技法を習得する。	◎基礎演習(社会学)
2 年 次	社会学という学問が発展してきた歴史について、背景となる社会的現実に関連づけながら学習する。	◎社会学史Ⅰ・Ⅱ
	統計による量的調査法、事例研究による質的調査法の両者について、基礎的な手法と具体的な進め方を学習する。	◎社会調査法A
	社会的なもの、考え方について、自主的な発表、討論などで、効果的な口頭発表の行い方、学術的な文章の書き方、討論の進め方について学ぶ。	◎2年次演習(社会学)Ⅰ・Ⅱ
	<b>【2・3・4年次共通】</b> 各分野の研究領域について理解を深め、より高度な知識を獲得する。	○応用講義の各科目
3 年 次	自らの専攻領域を決め、卒業論文研究に向けて、理念的側面、方法的側面、技術的側面について学びながら、卒業論文研究の基礎作りを行う。	◎3年次演習(社会学)Ⅰ・Ⅱ
	卒業論文研究の準備のために演習と連携して行い、社会調査の方法を学ぶ。	◎社会調査実習Ⅰ・Ⅱ
4 年 次	卒業論文作成に向けて、発表や討論を重ねることにより、個人の研究内容の進化を計り、論文執筆のための技法を習得する。自ら問題を発見・分析・解決する能力を伸ばすことによって、現実の問題に対する応用力を高める。	◎4年次演習(社会学)Ⅰ・Ⅱ ◎卒業論文

## コミュニティ構想専攻

### 《教育目標》

コミュニティ構想専攻は、社会科学を用いた実践的な学びを通して、多角的な視点からコミュニティに関する知識と理解を深め、企画立案力、政策提案力、意思決定力を身につけ、よりよいコミュニティの制度的実現と発展に貢献できる人物の育成を目的とする。

### 《カリキュラムの特色》

コミュニティ構想専攻では、学び方を指導する科目として「実践的研究計画法（研究計画）・（研究構想）」を設置しています。1年次から4年次までの学生が履修できる科目で、それぞれの学びの段階を確認し、一人ひとりが学際的・実践的な学びのプロジェクトを構想、計画するための指導を行います。また、学年を超えた学生同士が学びあう場としての役割も果たします。

コミュニティ構想専攻では1年次から演習授業を取り入れて、学際的・実践的な「ものの見方」を学んでいきます。入門的な講義により、コミュニティ構想の諸科目を学ぶ土台作りをします。2年次では、1年次の学びを一層深めるとともに、コミュニティ調査法、フィールドワーク、拠点実習（インターンシップなど、地域や職場での実践を行うためのプロジェクト方式の演習）の勉学がはじまり、問題を自ら捉え、実践し、解決する能力の養成を目指します。

3年次、4年次では、各自の関心に従ってまちづくり、観光、風景、文化などの主題別の演習のクラスに分かれ、実践的な実習の履修とあわせ、学習の総仕上げに向かいます。

#### ① 最先端の研究成果を学ぶ科目

観光学、都市計画学、環境学、地理学、法学、経営学、社会学、社会心理学、哲学などの学問を学際的に用いながら、ツーリズム、ホスピタリティ、サステナビリティ、ソーシャルキャピタル、リーダーシップ、ソーシャルサポート、ジェンダー、グローバリゼーション、リスクマネジメントといったコミュニティ構想の手がかりとなるアイディアについて、講義や演習を通して理解を深めていきます。

#### ② 行動的で実践的な研究方法を学ぶ科目

実際に社会的現実へ接して社会問題を実践的に考えるために、アンケート、インタビュー、フィールドワーク、ファシリテーションの手法を習得します。

拠点実習、調査実習には、実践のためのリテラシーを養うことが不可欠です。この点を特に重視して指導をすすめます。

#### ③ 少人数での演習科目

各年次に演習があります。上級生の演習は、観光、まちづくり、環境、ジェンダー、文化、社会心理などの研究領域毎に分かれており、専門的な学習を深めていきます。調査実習や拠点実習が主題別に設置され、各自の関心に合った調査方法を学び、実習を行います。

#### ④ 卒業研究

個別指導や学生相互の討論などを行い、卒業研究に向け綿密に準備していきます。キャリアデザインなども視野に入れたコミュニティ構想の実践的な研究指導も取り入れます。

### 《履修法の助言》

#### ■ 学科および専攻の科目について

「学科・専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）」の表を参照し、各学年の学習がどのように位置付けられているかを確認してください。

1年次では、学科入門科目としての「国際社会論」により国際社会研究の基礎的視座とは何かを学びます。この授業を前提に「国際社会基礎演習」で、グローバル化する現代社会の諸問題、およ

びそれを考察するための基礎理論を学びます。専攻科目では、「コミュニティ構想論」「コミュニティ政策論」「コミュニティとジェンダー」「グローバル共生とコミュニティ」「コミュニティ計測法基礎」によりコミュニティ構想専攻で学ぶ基礎作りを行います。また、「基礎演習（コミュニティ構想）」において、コミュニティ構想専攻で学んでいくために必要な学習の技法（研究発表の仕方、質疑・応答や討論の行い方、文献や資料などの集め方、調べ方）を学んでいきます。

2年次では、こうした指導を踏まえ、まちづくり、観光、景観や環境、文化、ジェンダー、政治参加などのテーマ別に用意された授業科目をそれぞれの関心に基づいて履修することにより、コミュニティ全般の知識を養います。

コミュニティ調査法では、コミュニティ調査に必要となる知識を体系的に身につけていきます。質問紙によるデータ収集や事例研究、調査倫理など、社会的現実に対して事実を解明するための量的・質的社会調査法に関する知識と姿勢を修得します。「コミュニティ調査法A」「コミュニティ調査法B」「コミュニティ計測法A」「コミュニティ計測法B」「都市フィールドワーク」を選択することができます。「2年次演習（コミュニティ構想）I・II」では、コミュニティ構想の方法について、自主的な発表、討論などによる演習形式で学習します。効果的な口頭発表（プレゼンテーション）の行い方、学術的な文章の書き方、討論の進め方を修得します。2年次後期には、キャリアや地域の現場での実践をめざす「コミュニティ拠点実習（キャリア構想）・（地域構想）」により、3年次以降の実践的なプロジェクトのための基礎をつくります。

多くの授業は、毎年開講されるとはかぎらないので、開講予定を確認しながら履修計画を立てることを勧めます（教育課程の備考欄参照）。社会調査士資格を取得する人は、特に注意してください（「コミュニティ計測法基礎」「都市フィールドワーク」等）。

3年次でどの担当者の演習を履修するかということは、卒業論文のテーマにもかかわってきますので、2年次のうちに自分の関心の所在を明確にしておくことが必要です。

3年次では、少人数で行われる「3年次演習（コミュニティ構想）I・II」に分かれ、これを核として専門性の高い知識を修得していきます。同時に、演習別に分かれて履修する「コミュニティ調査実習（企画・立案・設計）・（実査と分析）」、「コミュニティ拠点実習（キャリア実践）・（地域実践）」では、演習と連携して行われるきめ細かい指導を通じて、研究領域によって異なる調査・実践方法を身につけます。これらの学習により、卒業研究の綿密な準備が可能となります。応用講義の各科目は、各自の関心、あるいは演習での研究テーマなどに応じて、幅広く履修してください。社会学専攻、経済学専攻、国際関係専攻の科目を履修し、応用力を高めることもできます。2年次以降において「実践的研究計画法（研究計画）・（研究構想）」を履修することにより、学びのデザイン、学びのプロジェクトについての理解を深めることもできます。

4年次では、大学での学習の集大成として、これまで体系的に修得した理論と知識を用い、各自が関心をもつ具体的なテーマについて卒業論文を作成します。原則として3年次演習と同じ教員が担当する「4年次演習（コミュニティ構想）I・II」で綿密な指導を受けながら、自らが研究対象とする分野の知識を深め、個別の問題関心を学問的に磨き上げていきます。卒業論文作成の指導もまた、原則として同じ教員が担当します。これまでに学んだ講義、演習、調査法・実践法に基づいて、自分のテーマにそって論文を作成します。テーマを選び、文献を読み、場合によっては調査プロジェクト、社会実践をしながら執筆するというプロセスを経て、学問的にも人間的にも大きく成長していきます。「実践的研究計画法（研究計画）・（研究構想）」を4年次に履修することにより、学部における学習の成果を総括することができます。

#### ■全学共通カリキュラムとの関連について

**第一外国語科目**：自分の専門性を深めるためにも英語能力を高めることは不可欠です。積極的に履修するように勧めます。

**第二外国語科目**：特に言語を指示しませんが、国際社会の理解を深めるため読解A、読解B、作文と文法、会話も履修を勧めます。

**AI・データサイエンス科目**：データ処理の高度な知識・技術の習得が望ましいので、積極的な履修を勧めます。コミュニティ構想の社会調査等にも重要です。

### 《その他》

履修の方法の詳細や資格取得等については、年度初めのガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。

### 国際社会学科およびコミュニティ構想専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目 (◎必修科目 ○選択必修科目)
1 年 次	国際社会学科で学ぶ基礎作りをし、国際社会研究のための基礎的視点を養う。	◎国際社会論
	コミュニティ構想の視点と方法について基礎的知識を得る。	○コミュニティ構想論 ○コミュニティ政策論 ○コミュニティとジェンダー ○グローバル共生とコミュニティ
	国際社会論の授業内容を前提にしなが、グローバル化する現代社会の諸問題、およびそれを考察する視点の基礎作りを行う。	◎国際社会基礎演習
	自主的な学習を前提とした報告や討論による演習形式での講義を通じて、大学で社会科学を学んでいくために必要な学習の技法を習得する。	◎基礎演習(コミュニティ構想)
	2年次以降の学びをどう構成するかについて計画を練るための基礎知識を得る。	○実践的研究計画法(研究計画)・(研究構想)
<b>【1・2・3年次共通】</b>	○基礎講義の「コミュニティと文化」～「コミュニティ計測法基礎」	
2 年 次	社会科学のものの見方、考え方について、自主的な発表、討論などで、効果的な口頭発表の行い方、学術的な文章の書き方、討論の進め方について学ぶ。	◎2年次演習(コミュニティ構想)Ⅰ・Ⅱ
	演習と連携して行い、コミュニティ実践の基礎を学ぶ。	○「コミュニティ拠点実習(キャリア構想)・(地域構想)」
	<b>【2・3・4年次共通】</b> 各分野の研究領域について理解を深め、より高度な知識を獲得する。	○応用講義の各科目
<b>【2・3・4年次共通】</b> 学びの基礎を振り返り、これまでの学びを総括し、省察する。	○実践的研究計画法(研究計画)・(研究構想)	
3 年 次	自らの専攻領域を決め、卒業研究に向けて、知識を深めながら、卒業研究の基礎作りを行う。	◎3年次演習(コミュニティ構想)Ⅰ・Ⅱ
	卒業研究の準備のために演習と連携して行い、コミュニティ実践の方法を学ぶ。	○「コミュニティ拠点実習(キャリア実践)・(地域実践)」 ○「コミュニティ調査実習(企画・立案・設計)・(実査と分析)」
4 年 次	卒業論文作成に向けて、発表や討論を重ねることにより、個人の研究内容の進化を計り、論文執筆のための技法を習得する。自ら問題を発見・分析・解決する能力を伸ばすことにより、現実の問題に対する応用力を高める。	◎4年次演習(コミュニティ構想)Ⅰ・Ⅱ ◎卒業論文